

笠間陶芸大学校事業による人材育成

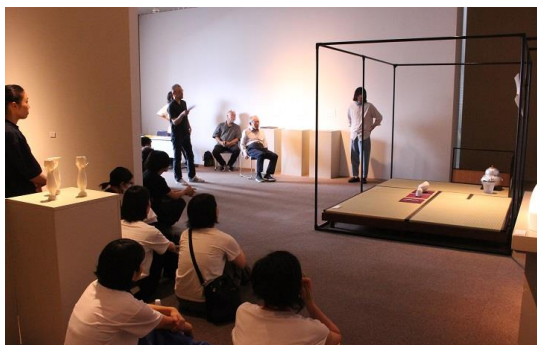


図 1 研究科前期展(陶芸美術館)



図 2 2 年生作品展(笠間工芸の丘)



図 3 1 年生ろくろ実習(課題審査)



図 4 各種講座(公開講座Ⅱ)

【内 容】

本事業は、陶芸産地の新しい担い手育成及び産地作陶家の課題解決力向上を図る目的で実施しました。

○陶芸産地の新しい担い手育成

陶芸学科(1 年生 12 名、2 年生 12 名)・研究科(3 名)は表 1 のカリキュラムのとおり実施しました。

また発表の場として、研究科前期展、2 年生作品展を開催しました。

研究科前期展 : 9/11~16、来場者 579 名

2 年生作品展 : 8/28~9/18、来場者 2,154 名

なお 2 月には、例年行われている卒業制作展を陶芸美術館にて開催しました。

表 1 各学科の内容

学科	カリキュラム(約 200 日 1,400 時間)
陶芸学科 1 年生	基礎課題、ろくろ成形課題(図 3)、石膏課題、手びねり等造形課題、意匠課題、釉薬調合、焼成実習(ガス・電気・薪など)、各種講座(図 4)など
陶芸学科 2 年生	造形課題(5 課題)、ポートフォリオ課題、各種講座、卒業制作など
研究科	前期課題、インターンシップ、各種講座、卒業制作など

○産地作陶家向け専門研修

産地作陶家の課題解決力向上、及び技術力向上を目的とした専門研修を実施しました(表 2)。今年度は、延べ 8 名に受講いただきました。(図 5)

表 2 専門研修の科目と内容

科目	内 容
成形技術	座学および実習を含む定型カリキュラムによる研修
釉薬技術	
石膏技術	
焼成技術	
総合	受講者の要望に応じたオーダーメイド型の研修



図5 専門研修（左：釉薬技術 中：総合研修 右：総合研修）研修風景

【人材育成の成果】

陶芸大学校を卒業した学生は、陶芸作家を目指し、地元を中心に独立自営や窯元就業する等、将来の笠間産地を担う人材として大いに期待されています。

専門研修においては、オリジナル釉薬の開発や、習得したロクロ技術による新たな製品開発等、それぞれ目標を持って研修に参加することで、技術力の向上と製品化に繋がっています。

図6 現役学生入賞作品
研究科生 白鳥 好貴図7 現役学生入選作品
陶芸学科生 野口 郁図8 現役学生入選作品
陶芸学科生 宮原 春香

○各種公募展における在校生・卒業生の受賞者一覧（令和6年）

- ・ 第120回 有田国際陶磁展
 〈読売新聞社賞〉市川 佳依（H29 研究科卒）
- ・ 池袋アートギャザリング公募展 IAG AWARDS
 〈準IAG大賞〉丸山 純（H30 研究科卒）
- ・ 第13回国際陶磁器展美濃 国際陶磁器コンペティション
 〈銅賞〉アイザワリエ（H29 研究科卒）
- ・ 2024 伊丹国際クラフト展 「酒器・酒盃台」
 〈伊丹賞（第3位）〉白鳥 好貴（研究科生）（図6）
- ・ 備前現代陶芸ビエンナーレ 2024
 〈入選〉白鳥 好貴（研究科生）
 〈入選〉金森 絵美（R5 研究科卒）
 〈入選〉金 淑善（R5 研究科卒）
 〈入選〉陳 辛政（R4 研究科卒）
 〈入選〉柳 星太（R2 研究科卒）
 〈入選〉アイザワリエ（H29 研究科卒）
 〈入選〉宮本 果林（H28 研究科卒）
- ・ 第53回全陶展〈谷中田賞〉陳 辛政（R4 研究科卒）
- ・ hus 展〈特別賞〉野口 郁（陶芸学科2年生）（図7）
 〈特別賞〉宮原 春香（陶芸学科2年生）（図8）

基礎となった事業

令和6年度 笠間陶芸大学校事業

担当グループ

陶芸人材G

グループ長

常世田 茂

TEL:0296-72-0316

特命教授

佐藤 雅之

特命教授

五味 謙二

会計年度職員

根本 達志

会計年度職員

新島 佐知子

窯業材料G

グループ長

尾形 尚子

首席研究員

児玉 弘人

主任研究員

吉田 博和